

## 建築学科のカリキュラムについて

当学科は2004年度より現代の業界・社会のニーズに合うようにカリキュラムの大幅な変更を行い、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定教育プログラム申請を目指した設計・計画コースと構造コース、ならびに非申請の総合コースの三つのコースからなるカリキュラムを構築しました。さらに、2005年度は2008年度にJABEE申請を行うことを前提にカリキュラムの整備を図りました。2006年度はカリキュラムの一部を改定するとともに、学習・教育到達目標も一部見直しました。2007年度は学習・教育到達目標を一部見直しました。そして2008年度にJABEE認定審査を受け、設計・計画コースと構造コースがJABEE認定教育プログラムとして認定されました。2009年度は科目の学年配置を一部変更しました。2010年度はJABEE認定基準の改定ならびに卒業単位に関する学則の改定に伴い、カリキュラムを一部見直しました。また、2010年度改定JABEE認定基準では自己学習時間をシステムとして確保することが要求されていることから、シラバスを一部見直しました。ここに、自己学習時間とは、授業の予習や復習、さらに教員が効果的な学習活動のために指示する宿題・実験レポート作成、調査・研究活動などの時間を指します。本来、文部科学省の定義によれば大学で取得する1単位にはこのような自己学習時間の確保が要求されていたのですが曖昧に放置されていた経緯があります。そこで、「教員の教授・指導による学生の自立的自発的学習を誘導する教育形態が重要となる。」との主旨の下、今後は自己学習時間確保に取り組むシステムの存在とその実践が要求されることになったのです。自己学習時間を確保する取り組みは科目ごとに異なっていますので、シラバスで確認してください。2011年度は15回授業実施に伴う変更と1科目の新設、ならびに2科目の名称変更を実施しました。2012年度には、JABEEコースへの進級条件の一部の緩和を行いました。2013年度には、2013年度以降の入学を対象として、以下のカリキュラム改正を行いました。

- (1) 建築生産管理を3年次後期に、技術者倫理を4年次前期に移動。
- (2) 休講となっていた、「測量学及び実習」を「測量実習」と名称変更の上、開講。
- (3) 新たに建築キャリアデザインを開講。
- (4) 集合住宅計画を3年次後期に移動。(全コース必修)

鉄筋コンクリート構造の基礎を3年次前期に移動。(全コース必修)

木質構造を3年次前期に移動。

そして2014年度には、設計・計画コースと構造コースの学習・教育到達目標を改訂し、新たにC-5チームで仕事をするための力をつけ加えました。

各コースとも時間割は共通ですが、卒業要件が異なります。以下に、各コースの詳細について述べます。

### I. 2005年度以降入学生

#### 1. 総合コースの詳細について

総合コースは、一級建築士の取得を目標に、総合的な視野で建築業界において幅広く活躍できる人材の育成を目標としています。

卒業に必要な総単位数は130単位\*1で全コース共通ですが、このコースでは、設計・計画コースに比較して、建築設計の必修科目を少なくし、ランドスケープデザイン論、地域計画など地域づくりのための必修科

目を多くしています。また、構造コースに比較して、構造の応用的な必修科目を少なくし、構造の基礎的な必修科目を中心に学べるようにしています。より学生の個性を尊重し、建築とその関連分野を地域、環境、景観、歴史、文化、生活などに渡って幅広く、自主的に学べるように配慮したプログラムです。(\*1：2009年度以前入学生は138単位)

#### (1) このコースの教育目的、学習・教育到達目標

このコースの教育目的は次の通りです。「建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかり、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成することをめざす。」

また、学習・教育到達目標は次の通りです。

##### 1. 社会貢献・地域連携

社会において指導力を発揮して幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成する。

##### 2. 基礎学力の充実

建築技術者としての十分な基礎学力を身に付ける。

##### 3. 高度で実践的な専門性と調和のとれた教養を有する人格の形成

高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかる。

#### (2) このコースへの進級について

学科履修規程6条の3に定める3年関門の条件を満たしていれば、このコースへの進級が可能となります。

#### (3) このコースの修了要件（卒業要件）について

このコースを修了すなわち卒業するためには、学則第34条あるいは学科履修規程第2条に定めるように、共通教育科目の総合教養科目12単位以上、外国語科目12単位以上、保健体育科目2単位、合計26単位以上、工学共通科目の必修12単位\*<sup>2</sup>、選択6単位以上、専門教育科目の必修71単位\*<sup>3</sup>、選択15単位以上\*<sup>4</sup>、総計130単位以上\*<sup>5</sup>を修得しなければなりません。（\*<sup>2</sup>：2009年度以前入学生は14単位、\*<sup>3</sup>：2007～2008年度生は74単位、2009年度生は76単位、\*<sup>4</sup>：2007～2008年度生は18単位、2009年度入学生は16単位、\*<sup>5</sup>：2009年度以前入学生は138単位）

成績考査規程第12条(1)に従って、第4年次以上の卒業見込み者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、しかもその必要単位数のうち8単位以内の不合格点を得た者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）に対しては、本人の願い出により当該年度に登録し不合格となった科目について、学年末に再試験を行うことがあります。

#### (4) 編・転・学士入学時の単位認定について

他の高等教育機関等で取得した単位の換算は、本学教務委員会が定める基準によって行われます。取得した専門教育科目の単位は、その科目の学習・教育目標が、本学科シラバスに記載している専門教育科目の学習・教育到達目標に相当し、しかも達成目標を満たしている場合に認定されます。

#### 2. 設計・計画コースの詳細について

設計・計画コースは2008年度にJABEE認定教育プログラムに認定されたコースです。このコースは設計・計画のプロを目指すコースであり、設計・計画に特化した教育が受けられます。

卒業に必要な総単位数は130単位\*<sup>6</sup>で全コース共通ですが、他のコースに比較して建築設計の必修科目を多くし、構造系の必修科目を少なくしています。（\*<sup>6</sup>：2009年度以前入学生は138単位）

#### (1) このコースの教育目的、学習・教育到達目標

このコースの教育目的は次の通りです。「建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかり、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成することをめざす。」

また、学習・教育到達目標は以下の通りです。総合コースに比較して、より詳しい学習・教育到達目標を設定しています。

##### A. 社会貢献・地域連携

社会において指導力を発揮して幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成する。

A-1 地域との連携：地球環境問題をはじめ、地域の伝統的な風土・景観・文化の問題を踏まえて計画・設計する能力を育成する。

A-2 技術者倫理：建築技術者の地球環境、社会や地域に対する責任を理解する。

##### B. 基礎学力の充実

建築技術者としての十分な基礎学力を身に付ける。

B-1 工学の基礎となる力：工学の基礎となる数学や自然科学の基礎学力、情報処理能力を身につける。

B-2 建築の基礎となる力：造形・空間創造のための基礎的なデザイン能力・知識、建築計画・建築環境の基礎知識、建築の構造・材料に関する基礎知識を獲得する。

B-3 多様な文化を理解する基礎となる力：建築と関連する人文・社会文化系の基礎的な教養を獲得し、国際的な活動に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

C. 高度で実践的な専門性と調和のとれた教養を有する人格の形成

高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかる。

C-1 建築における分野別の専門的な知識を使いこなす力：建築計画・設計に関する応用的な知識・能力を獲得する。具体的には、①敷地などの与条件を理解し、都市・歴史・文化などを考慮しつつ、社会的に有効な提案をおこなう能力、②建築の構成要素の性能と特長を理解し、これを設計に応用する能力、③機能性・象徴性などの要素を考慮しつつ、提案に沿った空間構成を展開する能力、を獲得することを目的とする。

また、構造、環境、施工に関して必要な応用的知識・能力を獲得することを目的とする。

C-2 建築における複数の分野を横断的に総合する力：都市計画、歴史、芸術などの諸領域と有機的に関連して、建築物を計画・設計する能力および表現技術、防災や外力、材料性能に関する知識を統合し、建築構造物を計画・設計する能力を育成する。

C-3 建築において自律的に計画を立案・制御・推進する力：演習や実験を通して問題を発見し、必要な情報を自主的かつ継続的に収集分析する行動能力を養成する。

C-4 建築において制約条件に基づいて計画的に立案・制御・推進する力：演習や実験を通して問題発見から解決に至るプロセスを計画的に推進する能力を養成する。

C-5 チームで仕事をするための力：他者と協働する際に自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力および、協働する際に他者の取るべき行動を判断し、働きかける能力を養成する。

以上のような学習・教育到達目標に対して開講されている授業科目は表1の通りです。なお、それぞれの

科目は複数の学習・教育到達目標を持っており、必ずしも表1に分類する目標のみに限定されるものではありません。

## (2) このコースへの進級について

学科履修規程6条の3に定める3年関門の条件を満たし、かつ、2年次までの必修科目の内、未修得のものが1科目(2単位)以内であることをこのコースへの進級条件とします。

以上の条件を全て満たし、2年次終了時(掲示によって通知する期日)に所定の提出先に、設計・計画コースへの進級希望票を提出した者が設計・計画コースへコース分けされます。ただし、希望者が20名を超えた場合には、2年次までの成績(平均点)を選考基準として選抜します。卒業要件はコース毎に異なりますので、コースの特徴と自分の適性をよく見極めて希望してください。進級後のコース変更は認められませんので十分注意してください。

## (3) このコースの修了要件(卒業要件)について

このコースを修了すなわち卒業するためには、学則第34条あるいは学科履修規程第2条に定めるように、共通教育科目の総合教養科目12単位以上、外国語科目12単位以上、保健体育科目2単位、合計26単位以上、工学共通科目の必修12単位\*7、選択6単位以上、専門教育科目の必修76単位\*8、選択10単位以上\*9、総計130単位以上\*10を修得しなければなりません>(\*7:2009年度以前入学生は14単位、\*8:2007~2008年度生は77単位、2009年度生は79単位、\*9:2007~2008年度生は15単位、2009年度生は13単位、\*10:2009年度以前入学生は138単位)

成績考査規程第12条(1)に従って、第4年次以上の卒業見込み者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、しかもその必要単位数のうち8単位以内の不合格点を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)に対しては、本人の願い出により当該年度に登録し不合格となった科目について、学年末に再試験を行うことがあります。

## (4) 編・転・学士入学時の単位認定について

他の高等教育機関等で取得した単位の換算は、本学教務委員会が定める基準によって行われます。取得した専門教育科目の単位は、その科目の学習・教育到達目標が、本学科シラバスに記載している専門

教育科目の学習・教育到達目標に相当し、しかも達成目標を満たしている場合に認定されます。

関連する人文・社会文化系の基礎的な教養を獲得し、国際的な活動に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

### 3. 構造コースの詳細について

構造コースは2008年度に JABEE 認定教育プログラムに認定されたコースです。このコースは構造技術者のエキスパートになるためのコースであり、構造理論、計画、設計に特化した教育が受けられます。

卒業に必要な総単位数は130単位<sup>\*11</sup>で全コース共通ですが、構造コースでは、他のコースに比較して構造系の基礎および応用的な必修科目を多くし、建築設計の必修科目を少なくしています。（\*11：2009年度以前入学生は138単位）

#### (1) このコースの教育目的、学習・教育到達目標

このコースの教育理念は次の通りです。「建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかり、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成することをめざす。」

また、学習・教育到達目標は以下の通りです。総合コースに比較して、より詳しい学習・教育到達目標を設定しています。

#### A. 社会貢献・地域連携

社会において指導力を発揮して幅広く活躍・貢献できる人材を地域と連携して育成する。

A-1 地域との連携：地球環境問題をはじめ、地域の伝統的な風土・景観・文化の問題を踏まえて計画・設計する能力を育成する。

A-2 技術者倫理：建築技術者の地球環境、社会や地域に対する責任を理解する。

#### B. 基礎学力の充実

建築技術者としての十分な基礎学力を身に付ける。

B-1 工学の基礎となる力：工学の基礎となる数学や自然科学の基礎学力、情報処理能力を身につける。

B-2 建築の基礎となる力：造形・空間創造のための基礎的なデザイン能力・知識、建築計画・建築環境の基礎知識、建築の構造・材料に関する基礎知識を獲得する。

B-3 多様な文化を理解する基礎となる力：建築と

C. 高度で実践的な専門性と調和のとれた教養を有する人格の形成

高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格の形成をはかる。

C-1 建築における分野別の専門的な知識を使いこなす力：構造設計・計画に関する応用的な知識・能力を獲得する。具体的には、①要求される建築空間の特質と性能を具現化するための構造計画を展開し、立案する能力、②既存の技術や新技術を設計に応用する能力、③安全性、機能性、造形性、経済性、施工性、耐久性、耐火性などの諸要因の合理的な調和を図ることが可能となる構造を設計する能力、を獲得することを目的とする。また、設計・計画、環境、施工に関して必要な応用的知識・能力を獲得することを目的とする。

C-2 建築における複数の分野を横断的に総合する力：都市計画、歴史、芸術などの諸領域と有機的に関連して、建築物を計画・設計する能力および表現技術、防災や外力、材料性能に関する知識を統合し、建築構造物を計画・設計する能力を育成する。

C-3 建築において自律的に計画を立案・制御・推進する力：演習や実験を通して問題を発見し、必要な情報を自主的かつ継続的に収集分析する行動能力を養成する。

C-4 建築において制約条件に基づいて計画的に立案・制御・推進する力：演習や実験を通して問題発見から解決に至るプロセスを計画的に推進する能力を養成する。

C-5 チームで仕事をするための力：他者と協働する際に自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力および、協働する際に他者のとるべき行動を判断し、働きかける能力を養成する。

以上のような学習・教育到達目標に対して開講されている授業科目は表2の通りです。なお、それぞれの科目は複数の学習・教育到達目標を持っており、必ずしも表2に分類する目標のみに限定されるものではありません。

## (2) このコースへの進級について

学科履修規程 6 条の 3 に定める 3 年関門の条件を満たし、かつ、2 年次までの必修科目の内、未修得のものが 1 科目(2 単位)以内であることをこのコースへの進級条件とします。

以上の条件を全て満たし、2 年次終了時(掲示によって通知する期日)に所定の提出先に、構造コースへの進級希望票を提出した者が構造コースへコース分けされます。ただし、希望者が 20 名を超えた場合には、2 年次までの成績(平均点)を選考基準として選抜します。卒業要件はコース毎に異なりますので、コースの特徴と自分の適性をよく見極めて希望してください。進級後のコース変更は認められませんので十分注意してください。

## (3) このコースの修了要件(卒業要件)について

このコースを修了すなわち卒業するためには、学則第 34 条あるいは学科履修規程第 2 条に定めるように、共通教育科目の総合教養科目 12 単位以上、外国語科目 12 単位以上、保健体育科目 2 単位、合計 26 単位以上、工学共通科目の必修 12 単位\*<sup>12</sup>、選択 6 単位以上、専門教育科目の必修 79 単位\*<sup>13</sup>、選択 7 単位以

上\*<sup>14</sup>、総計 130 単位以上\*<sup>15</sup>を修得しなければなりません。( \*<sup>12</sup>: 2009 年度以前入学生は 14 単位、\*<sup>13</sup>: 2007~2008 年度生は 82 単位、2009 年度生は 84 単位、\*<sup>14</sup>: 2007~2008 年度生は 10 単位、2009 年度生は 8 単位、\*<sup>15</sup>: 2009 年度以前入学生は 138 単位)

成績考査規程第 12 条(1)に従って、第 4 年次以上の卒業見込み者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、しかもその必要単位数のうち 8 単位以内の不合格点を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)に対しては、本人の願い出により当該年度に登録し不合格となった科目について、学年末に再試験を行うことがあります。

## (4) 編・転・学士入学時の単位認定について

他の高等教育機関等で取得した単位の換算は、本学教務委員会が定める基準によって行われます。取得した専門教育科目の単位は、その科目の学習・教育到達目標が、本学科シラバスに記載している専門教育科目の学習・教育到達目標に相当し、しかも達成目標を満たしている場合に認定されます。

## 年次進行に伴うチェックポイント

- 1 年 次
  - ・カリキュラム、科目登録など教務関係事項の理解
  - ・「大学での目標と達成度の記録簿」の受け取りと記入開始
  - ・アドバイザー教員の決定
  - ・4 年間の履修計画
- 2 年 次
  - ・3 年次進級関門のクリアー(学科履修規定第 6 条の 3)
  - 2010 年度以降入学生 60 単位、2009 年度以前入学生 66 単位
  - ・2 年次終了時、コース分け希望票の提出
- 3 年 次
  - ・コース分け決定と自分のコースに沿った科目登録
  - ・4 年次進級関門のクリアー(学科履修規定第 6 条の 3)
  - 2010 年度以降入学生 100 単位、2009 年度以前入学生 110 単位
  - ・卒業計画の研究室配属決定
- 4 年 次
  - ・卒業計画の作成
  - ・卒業要件のクリアー(学則第 34 条の 7 および学則履修規定第 2 条の 7)
  - 2010 年度以降入学生 130 単位、2009 年度以前入学生 138 単位
  - ・「大学での目標と達成度の記録簿」の完成と提出



## 学則第34条および学科履修規程第2条（関係分）—卒業要件

学則第34条の7（平成25年度新入生（13台））

工学部の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学及び総合系列科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、建築学科の学生は18単位以上（必修科目12単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、建築学科の学生は86単位以上（必修科目及びコース別必修科目…総合コース71単位、設計・計画コース76単位、構造コース79単位、選択科目及びコース別選択科目…総合コース15単位以上、設計・計画コース10単位、構造コース7単位）総計130単位以上を修得しなければならない。

学則第2条の7

卒業するためには、次の単位を修得しなければならない。

### 平成22～26年度入学生（10～14台）

(1) 共通教育科目	{	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">総合教養科目</td> <td style="width: 15%;">人文科学…4単位以上</td> <td rowspan="3" style="width: 10%; vertical-align: middle;">} 計12単位以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>社会科学…4単位以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>総合系列科目</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">外国語科目</td> <td style="border-top: 1px solid black;">第1外国語…8単位以上</td> <td rowspan="2" style="border-top: 1px solid black; vertical-align: middle;">} 計12単位以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2外国語…4単位以上</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">保健体育科目</td> <td style="border-top: 1px solid black;">……………2単位</td> <td style="border-top: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	総合教養科目	人文科学…4単位以上	} 計12単位以上		社会科学…4単位以上		総合系列科目	外国語科目	第1外国語…8単位以上	} 計12単位以上		第2外国語…4単位以上	保健体育科目	……………2単位		}	合計26単位以上
総合教養科目	人文科学…4単位以上	} 計12単位以上																	
	社会科学…4単位以上																		
	総合系列科目																		
外国語科目	第1外国語…8単位以上	} 計12単位以上																	
	第2外国語…4単位以上																		
保健体育科目	……………2単位																		
(2) 工学共通科目	必修科目12単位	選択科目6単位以上		合計18単位以上															
(3) 専門教育科目	必修科目及びコース別必修科目	総合コース…71単位	設計・計画コース…76単位	構造コース…79単位	選択科目及びコース別選択科目														
		総合コース…15単位以上	設計・計画コース…10単位以上	構造コース…7単位以上															
		各々計86単位以上																	
					} 総計130単位以上														

### 平成21年度入学生（09台）

- (1) 共通教育科目 平成22年度新入生に同じ
  - (2) 工学共通科目 必修科目14単位 選択科目6単位以上 合計20単位以上
  - (3) 専門教育科目 92単位以上（必修科目及びコース別必修科目…総合コース76単位、設計・計画コース79単位、構造コース84単位、選択科目及びコース別選択科目…総合コース16単位以上、設計・計画コース13単位以上、構造コース8単位以上）
- 総計138単位以上

### 平成19～20年度入学生（07～08台）

- (1) 共通教育科目 平成21年度新入生に同じ
  - (2) 工学共通科目 平成21年度新入生に同じ
  - (3) 専門教育科目 92単位以上（必修科目及びコース別必修科目…総合コース74単位、設計・計画コース77単位、構造コース82単位、選択科目及びコース別選択科目…総合コース18単位以上、設計・計画コース15単位以上、構造コース10単位以上）
- 総計138単位以上

## 学科履修規程第6条の3……3年進級関門、4年進級関門

### 平成22～26年度入学生（10～14台）

#### 3年進級関門

（第1項）工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

#### 4年進級関門

（第2項）工学部の学生は、3年以上在学し、第1、2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位を修得しなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次の通りとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
- (2) 第1項の60単位に算入する第2外国語科目の単位数は、選択必修科目の4単位まで、第2項の100単位に算入する第2外国語科目の単位数は、選択必修科目の4単位。
- (3) 工学共通科目（あるいは工学基礎科目）は、18単位までとする。

### 平成21年度以前入学生（09台以前）

#### 3年進級関門

（第1項）工学部の学生は、2年以上在学し、66単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

#### 4年進級関門

（第2項）工学部の学生は、3年以上在学し、第1、2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む110単位を修得しなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

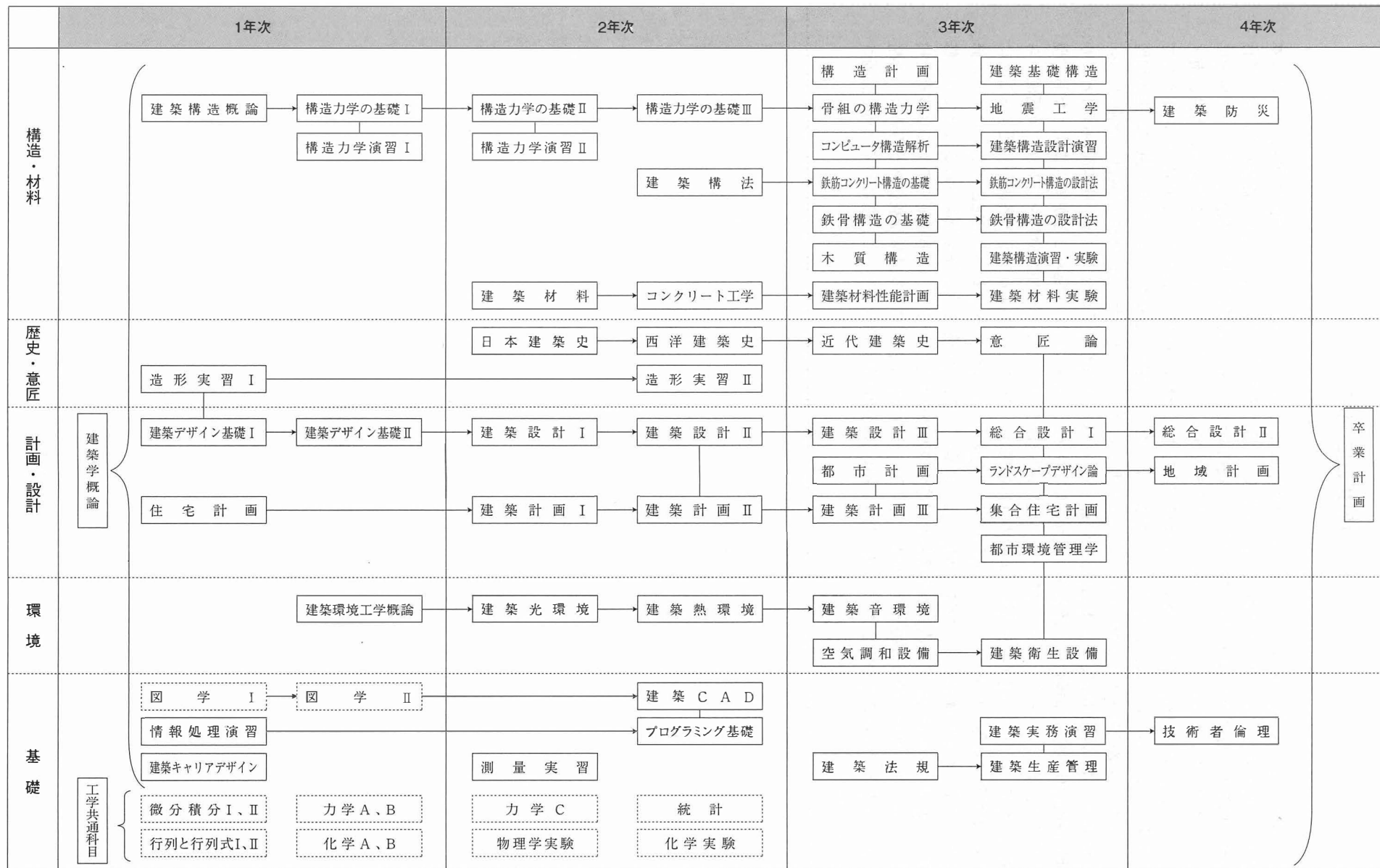
第1項の66単位・第2項の110単位に算入する総合教養科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次の通りとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
- (2) 第1項の66単位に算入する第2外国語科目の単位数は、選択必修科目の4単位まで、第2項の110単位に算入する第2外国語科目の単位数は、選択必修科目の4単位。
- (3) 工学共通科目（あるいは工学基礎科目）は、20単位までとする。

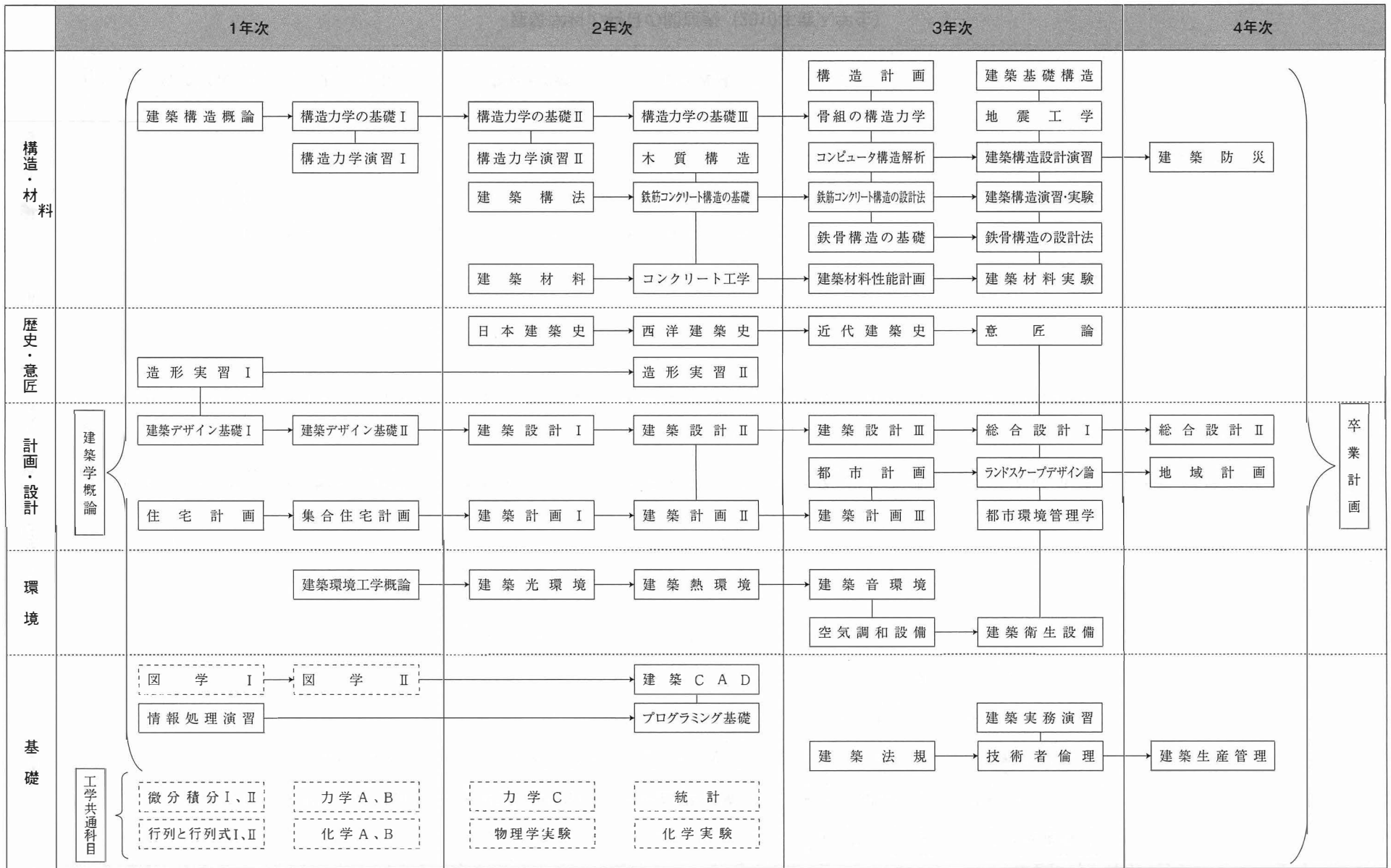


## JABEE について

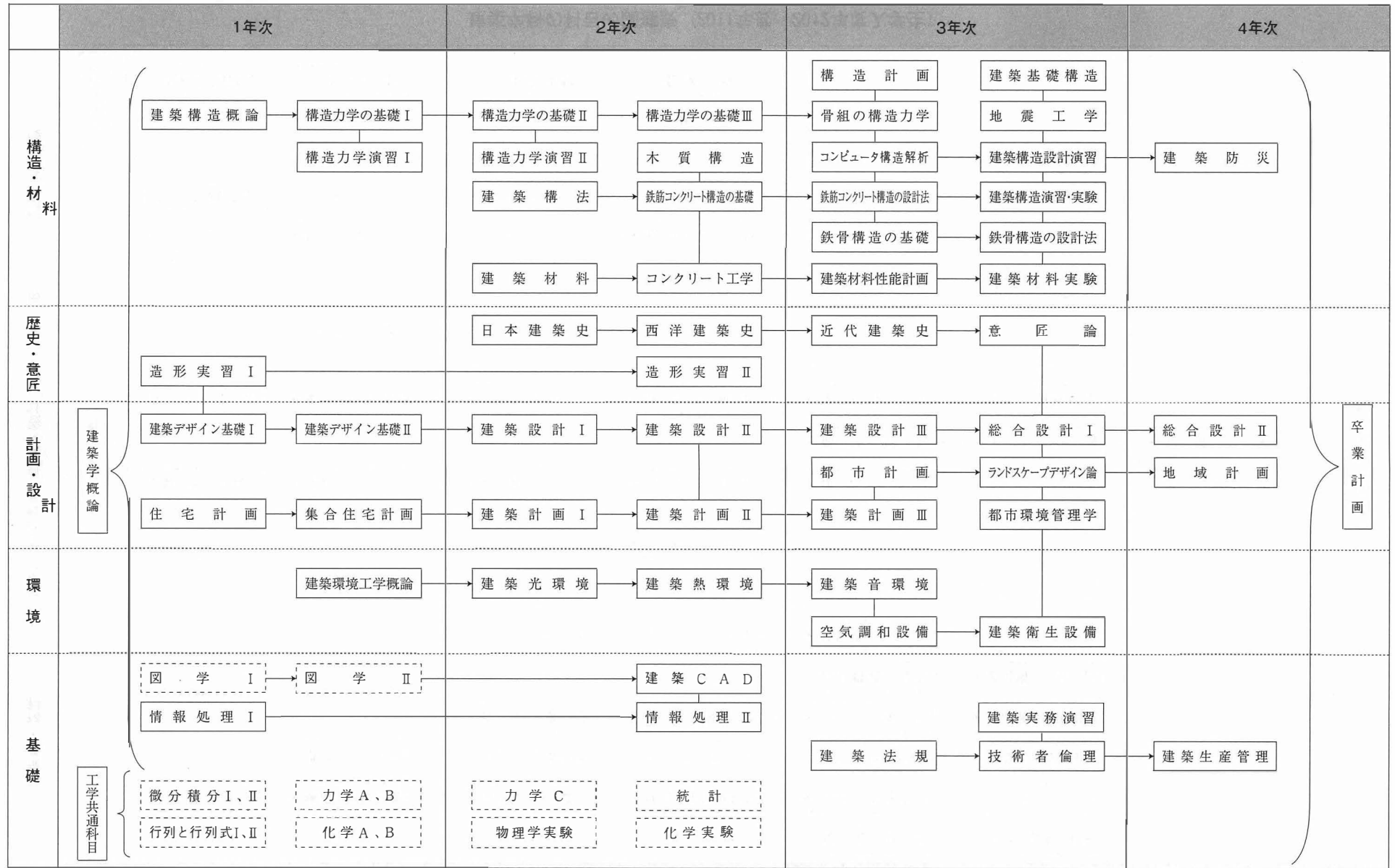
JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education、日本技術者教育認定機構) は日本で唯一の技術者教育プログラムの審査、認定機関です。その審査は JABEE が設定する審査基準によって行われ、国際的相互認定を念頭に置いたものです。技術者教育課程の国際的な相互認定はワシントン協定に加盟するアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、香港、南アフリカ各国間で行われ、それらの国の認定機関で認定された教育プログラムが冊子で世界中に流布されています。シンガポール、韓国、台湾も正式加盟しました。JABEE は2005年にワシントン協定に正式加盟し、日本での認定プログラムが広く世界に周知されることとなりました。当学科の「設計・計画コース」、「構造コース」は2008年度に JABEE 認定申請しています。これを修了した学生は、日本国内はもとより、世界各国で仕事をする場合に、認定プログラム修了生として誇りを持って臨むことができます。なお、現在ドイツ、インド、スリランカ、マレーシアが暫定加盟国、ロシアなどが加盟検討中であり、英語圏から発足したワシントン協定が非英語圏で最初の日本に続き、ヨーロッパおよびアジア各国が加盟することにより、実質的に世界全体をカバーする国際的相互認定機関になりつつあります。JABEE 認定プログラム修了生に与えられる特権のもう一つは、新技術士法に基づいて、その第1次試験を免除されることです。修了生は大学卒業後直ちに第1次試験合格者と同等の修習技術者となります。指導技術士の下では技術士補として4年間、優れた指導者の下でも同じく4年間の実務経験を経て第2次試験受験資格が得られ、合格すれば技術士となることができます。技術士は、高い技術的能力を持つ者として、産業界では高く評価されています。



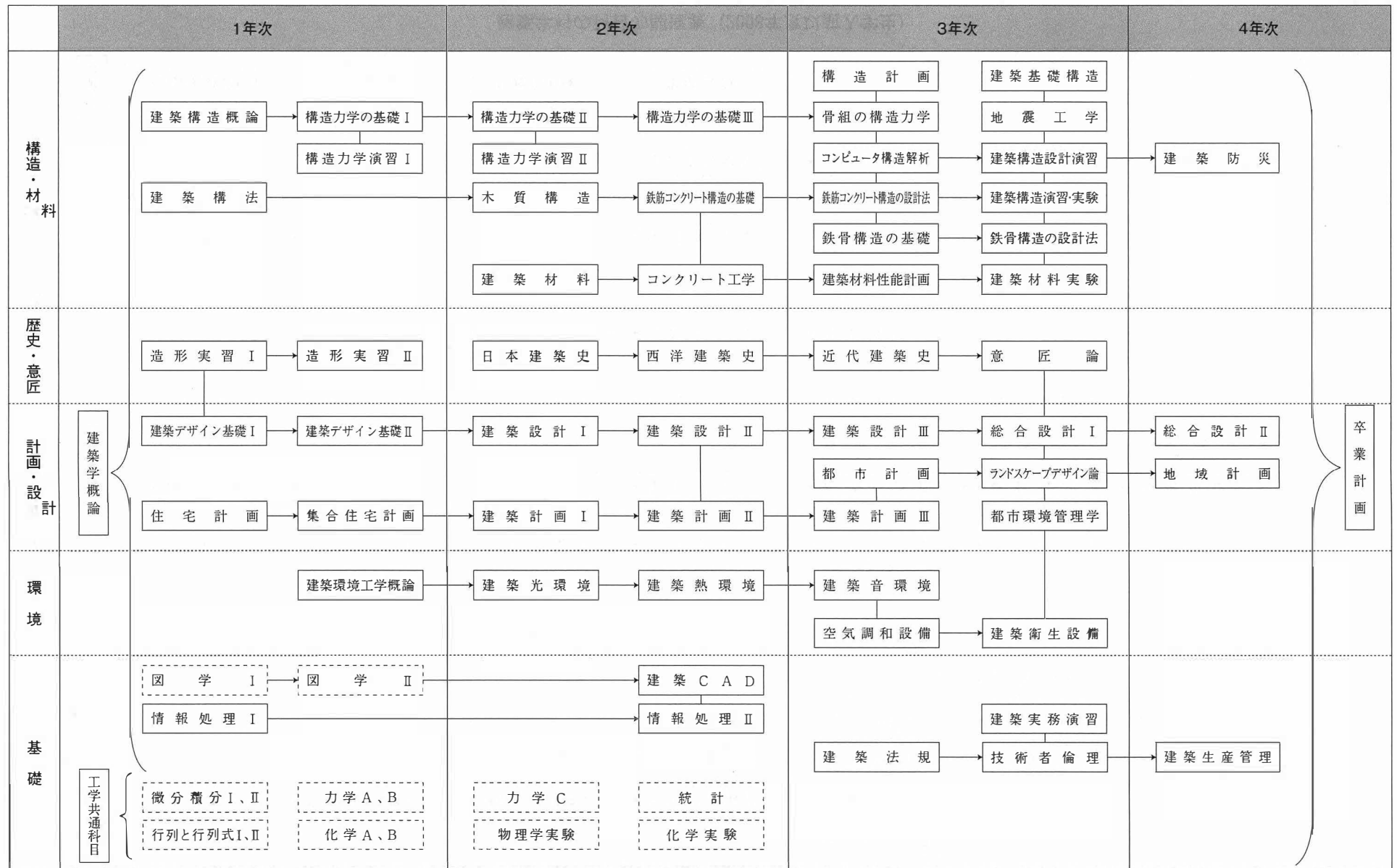
建築学科の科目の関連表（2013年度、2014年度入学生）



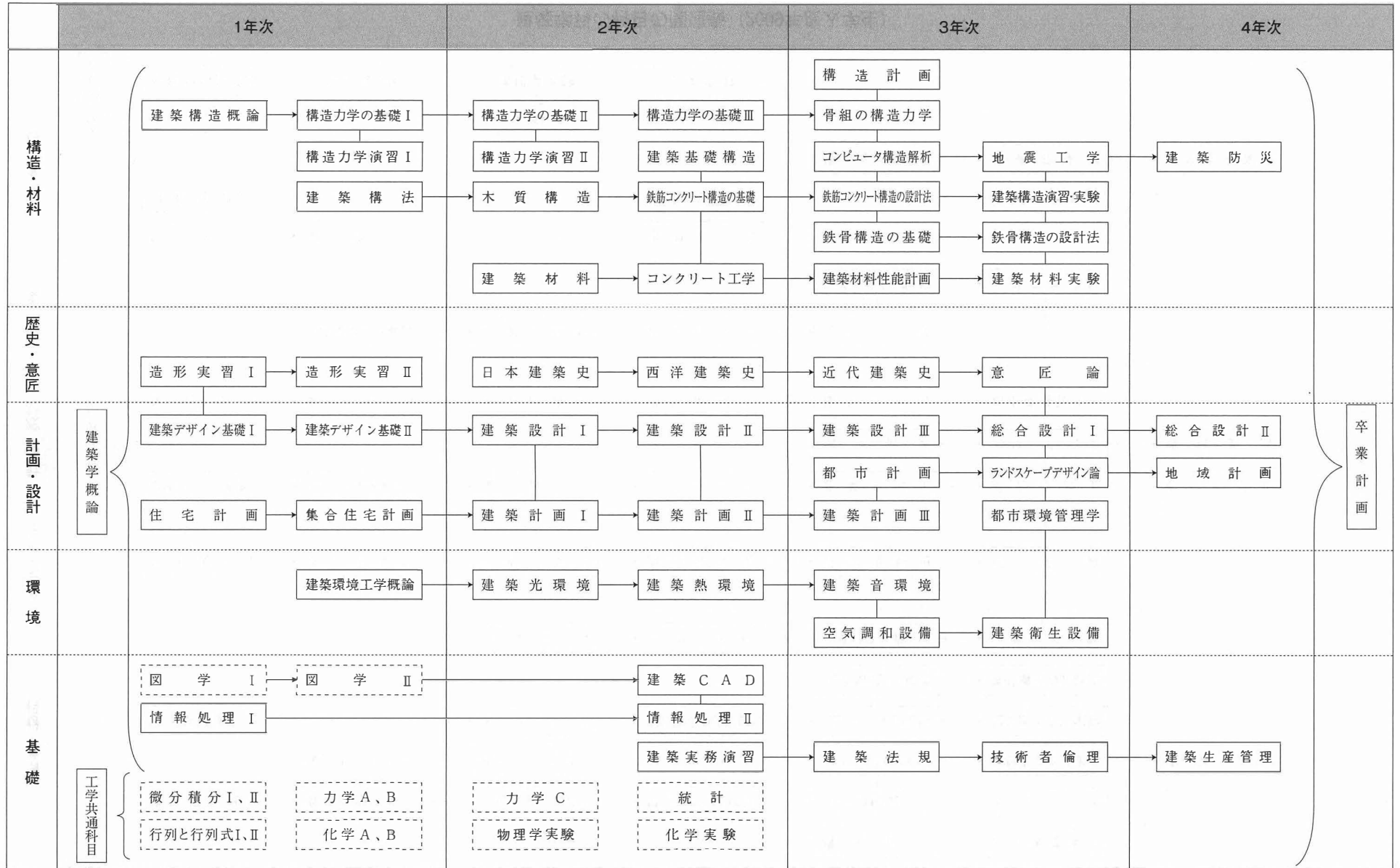
建築学科の科目の関連表（2011年度、2012年度入学生）



建築学科の科目の関連表 (2010年度入学生)



建築学科の科目の関連表 (2009年度入学生)



建築学科の科目の関連表 (2008年度以前入学生)